

考える勉強方法 合格体験記の読み方・活用方法

横田 信之

1977年（昭和52年） 旧司法試験合格

1978年（昭和53年） 明治大学法学部卒業

1 はじめに

合格体験記を読む理由・読み方

2 具体的方法 —合格体験記に基づく方法と実践

(1) 体力—健康維持の方法

(2) 気力—意欲の増進維持 悩みへの対応

(3) 学力—計画と実践

① 定義の記憶—記憶すべき事項と理解すべき事項

② 基礎的知識の取得—基本書の読み方

・ 1回目の読み方

筆記用具・書き込み・傍線

分からない部分についての対応

・ 2回目の読み方

本を開ける前に

目次の利用方法

分からない部分についての対応

・ 3回目以降の読み方

目次と条文の利用 項目見出しの作成

内容予測

筆記用具・書き込み・傍線

③ 論点整理—実戦的なサブノートの作成方法

・「論点」 範囲

・「整理」 目的

形式

内容 学説判例への対応

④ 論文の書き方の研究

i 答案練習会の利用方法

事前・当日・事後

ア 事前

数日前、前日、当日開始前に何をするかのリハーサル

例 定義の記憶 基本書・サブノートの確認、各作業の時間の確認

イ 当日

・問題文の読み方

よい問題であれば、無意味なことは書かれていない 原則

論点見落としの防止方法 関係ありそうなところは○を付けていく等

・その部分がどういう意味があるのか考える

・手控え用紙にメモをとる

問題点の検討順序

問題の所在 自説 理由 (条文上の 論理的な 実際上の)

自説への批判 これに対する反論

・全体的な論文の構成・分量の検討

・記載

・確認 補充 補正

・時間配分

ウ 事後

・出題講師の解説の聞き方 利用方法

・返却答案の確認・利用方法

・最高得点答案の分析・利用方法 サブノート化

・反省材料としての徹底利用

ii わからない問題への対処方法の研究

ア 必要理由

イ 学力・技術的対策

㊦ 考察方法の研究

・条文 制度

・原則論・その問題点・修正の必要・修正への批判・その対応

・体系・目次的な分析

・価値理論からのアプローチ 本人の保護と取引の安全等

・類似制度・問題からのアプローチ

・理由付け 条文の文理 制度趣旨 論理 実際上の利益

㊧ 論文記載技術 の習得

・分からない問題中心の答案練習

ウ 精神的対策 ギブアップからの出発

⑤ その他

授業・講義の利用方法

3 受験勉強と法曹としての仕事の実践

- ① 情報の収集・分析・発信としての共通性
- ② 基本書の読み方と事件記録の読み方
- ③ 論点整理と手控えの取り方・時系列表・合議メモの作り方
- ④ 答案作成と準備書面・論告・弁論・判決の記載

2018年12月16日
横田 信之